

「資源ごみ」のゆくえ

～リサイクルの現実と目指すべき方向性

2010年9月9日 (木)

午後6時～8時 (開場 午後5時40分)

弁護士会館 3階 301ABC会議室

講演

熊本 一規 氏 (明治学院大学国際学部教授)

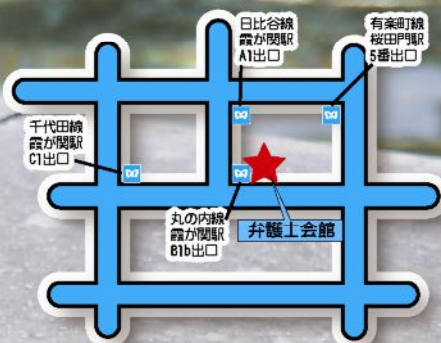
中井八千代 氏 (容器包装の3Rを進める全国ネットワーク)

伊藤 憲夫 氏 (新宿区環境清掃部部長)

参加無料
申込不要

本年は循環型社会形成推進基本法の制定から10年目にあたります。この間、各家庭や自治体・事業者等の努力で、PETボトルやプラスチック容器包装等の回収率は向上しましたが、収集後の処理行程や、リサイクルされた物のゆくえ等については広く知られているとは言い難いのが実情です。また生ごみの有効活用法についても、各地で試行錯誤が続いています。今こそ、「資源ごみ」を取り巻く現実について検証する好機といえるのではないでしょうか。

このシンポジウムでは、環境政策の専門家やNGO関係者等から、特に東京都内における一般廃棄物の処理・リサイクルの現場の報告を受けたうえで、海外の例も踏まえながら望ましいリサイクル手法とは何か、3R (リデュース、リユース、リサイクル) の取り組みをいかに広めるかを議論します。容器包装リサイクル法は近く見直しが予定されています。本シンポジウムをきっかけに、真に目指すべき循環型社会とは、そのための法制度はどうあるべきかを考えたいと思います。



弁護士会館
3階 301ABC会議室
千代田区霞が関1-1-3
(最寄駅：地下鉄「霞が関」駅B1-b出口直結)

本プレシンポジウムは、以下のシンポジウムに先立ち、東京三弁護士会が主催して実施するものです。

【第53回日弁連人権擁護大会シンポジウム・第3分科会】

廃棄物公害の根絶をめざして

～ゴミと汚染を強いられない、強い社会であるために～

日時：2010年10月7日 (木) 12:30～18:00、会場：岩手教育会館大ホール

主催 東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会

共催 日本弁護士連合会

問合せ先 東京弁護士会 人権課 03-3581-2205

